

ESD レポート

Education for Sustainable Development

vol. 13

2007 冬

2007年12月25日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」——それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。

シリーズ **学びの場をデザインする**

学校を世界に開く ～ 学校全体で取り組む ESD

東京都区立東雲小学校



ユネスコスクールに登録すると同時に ESD に取り組んで1年半。子どもも教師も親も、自分の学校や地域に自信と誇りが高まっています。それが地域、そして世界に働きかける原動力になっているのです。

ユネスコスクール(ユネスコ協同学校)とは:

ユネスコスクール(ユネスコ協同学校プロジェクトネットワーク "UNESCO Associated Schools Project Network: ASPnet")は、ユネスコ(国連教育科学文化機関)がすすめる理念を学校現場で実践することを目的に1953年に発足。現在175カ国7800校あまりが参加、日本では23校が参加しています(2007年11月現在)。ESDを柱に「地球規模の問題に対する国際システムの理解」「人権、民主主義の理解と促進」「異文化理解」「環境教育」の4つの視点に取り組む。

<キーワード>

教科・領域の横断、自信や誇りをもつ、多文化共生、自分の成長に生かせる学び

<関係者・団体>

東京国際交流館、日本科学未来館、パナソニックセンター、東京ビッグサイト、日本教育映像協会、NGO-APSD、水の科学館、水再生センター、地域のボランティア団体など60以上にのぼる



きっかけはユネスコスクール

東京都の臨海地域に学区をもつ江東区立東雲小学校は、2006 年度から全校をあげて ESD 教育計画を実践している画期的な学校です。その契機となったのは、ユネスコスクールへの登録でした。2003 年からすでに国際理解教育を学校の特色として校内研究に位置づけ推進してきましたが、その過程で、ユネスコスクールのことを知り、「これだ!」ということで登録。多数の外国籍の子どもたちが通う東雲小学校では多文化共生は大きなテーマ。そのなかで、校長の手島利夫先生は、従来型の国際交流を中心とした国際理解教育の枠におさまらず、より広い視野での取組みの必要性を感じていたとき、ESD に出会いました。ESD に取り組んだ結果、「東雲小学校の教育は変わりつつある」「ESD は学校のなかで取り組む価値がある」と確信を得たそうです。

ESD カレンダーとその実践

東雲の ESD へのアプローチはユニークです。ESD カレンダー(東雲プラン)を軸に、まさに学校教育の要である授業を中心に、すべての教科・領域にわたり ESD の指導がすすめられています。

2007 年度の 4 年生の取組みを「環境の視点」からみてみましょう。(図参照) 社会で「すみよいくらし 私たちのくらしとごみの始末」「すみよいくらしをささえる水 空からのおくりもの」という単元を学びます。それが国語の時間の壁新聞づくりにつながります。



エコプロダクツ展での発表

発展として、総合の時間に、「私たちの水、そして地球」の単元を設けると児童の意識は世界に広がります。そして、自分たちにできる具体的な行動として家族とともにキッズ ISO14000 に取り組んだり、特別活動でのクリーンデーに参加したりという流れになっていきます。今年、温暖化対策の情報提供ということで、<日本経済新聞社・環境授業>として、岩谷産業・プラスエムの協力を得て、水素エネルギー車づくりの授業を行い、温暖化対策についても学びました。

これらの学びの成果は、11 月の東雲フェスティバルで全校児童にむけて発表され、また、12 月に東京ビックサイトで開かれる「エコプロダクツ展」のステージ発表にも挑戦しました。

このような学びを「環境」だけではなく「国際システム」「人権、民主主義」「異文化理解」の視点に関しても、さまざまな教科を結んだ学習を、全学年で年間を通じて取り組もうとしているのです。

指導要領の中身を教科横断的に、環境や人権などの 4 つの視点でつなげることで、そして、実践をもとに児童から発信し、保護者・地域まで広げていくことが大切です。

「どの学校でも、すでに素晴らしい実践を日々積み重ねているはず。それらを ESD の視点でつなぐことで、ユネスコスクールの実践に早変わりしますよ」と手島先生は言います。

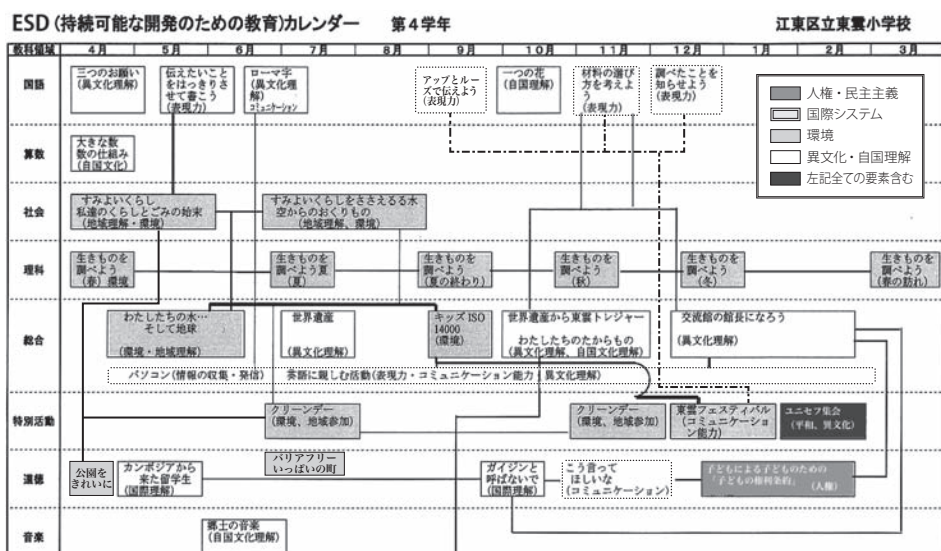
学校を開く、学校から開く

手島先生は、地球温暖化の影響による 20 年後の地球がいかに危機的かという鋭い問題意識をもち、今、ESD をすすめるべきではない、と考えます。こうした熱意を伝えるための工夫が、廊下に貼られた 200 以上の活動事例の写真です。お互いの授業の関連性が見え、部分だけでなく東雲小の教育全体もみえてきます。教師のチームワークはこうして育まれました。

そして、児童も教師も、さらには保護者も自分たちの学校に対して自信や誇りをもつようになります。児童からは、以前にも増して明るくのびのびした表情が多くみられるようになりました。児童が学んだことを、家に帰って家族に話すと、保護者も刺激されて関心を深めます。

東雲小では、地域に「学校を開く」と同時に、学校から地域へむかって、さまざまな手段で発信し続けています。ESD はどこで実践されるべきなのか? 東雲小の答えは「学校における教科・領域の学習のなか」。ここが変わらなければ教育全体も変わらない、教育全体が変わらなければ社会も変わらない、ESD はすべての学校で取り組むべきテーマだというメッセージは、ESD の 10 年の原点ではないでしょうか。

(取材報告: 上條直美)



※各学年の ESD カレンダーは東雲小学校ホームページ (www.koto.ed.jp/shinonome-sho/h19/esd/esd.html) を参照ください

ESD 的な要素抽出 from 東雲小学校

育まれている
価値観やスキル

- よりよい生き方を求めて学ぶ
- 多文化共生
- 異文化理解
- 自国理解
- 課題発見・追求
- コミュニケーション能力

重視されている
学びの手法

児童が自ら学ぶために、問題解決型の学習過程を重視している

コーディネーターの役割

- 教師は学習コーディネーターとして、地域リソースの活用、教科・領域間の関連ある指導をすすめる

江東区立東雲小学校

住所: 〒135-0062 東京都江東区東雲 2-4-11
 電話: 03-3529-1451 FAX: 03-3528-1768
<http://www.koto.ed.jp/shinonome-sho/>

高邁な政策提言の前に、地域で暮らす自分の責任とむきあうことから



“ESDの10年”がはじまってすでに3年、日本社会でもようやく市民権を得て、人びとの関心が集まりはじめた感じがします。ESD-Jのミッションはこの概念を具体的な行動につなぐところにあり、その手段として政策提言・国内外の地域ネットワーク構築などの活動を行っています。

しかし、どんな高邁な政策提言ができて、私たち一人ひとり、自分の暮らすまち（地域）において、“持続可能な社会を構成する一人の市民として自分の責任を果たす”という自覚ができなければ、社会の仕組みを変えることはできないのではないのでしょうか。

*

私の所属する自然体験活動推進協議会（CONE）で育成しているCONEの指導者たちのなかには、ESDの視点をもって地域

で暮らすことで地域連携の手がかりを得て、地域を持続可能なものに構築しなおそうとしている人たちがはじめています。また、私の軸足となるガールスカウト運動では世界中のガールスカウトの少女たちが難民問題やエイズの問題など自分たちの関心事をもとにアドボカシー活動を始め、世界を変えようと動きだしています。さらには、「チーム・マイナス6%」のメンバーとして稚拙ながらも温暖化防止の活動をおして地域で暮らす自分の責任を果たそうとしています。

*

ESDを推進する私たち一人ひとりの生きる姿勢、生活のあり方を変える勇気をもって行動を起こさないかぎり、社会の仕組みは変えられないと自覚します。<もっと便利に、もっと楽に>のどこにラインを引くか。

NPO 法人 自然体験活動推進協議会 重 政子

私一人ぐらいと日延べをしないで行動する潔さが必要です。楽しい活動をとおしてシチズンシップを身につけていくガールスカウトの少女たちにつきあっていると、彼女たちから多くのことを学びます。大人の私たち一人ひとりが、責任ある行動のとれるよう自らの市民性を育てる姿勢をみせていくことを基盤に、ESD-Jとしていよいよ政策提言などの本領を発揮できる段階に入ると緊張しています。



ESD-J 副代表理事。
1995年から10年間（社）ガールスカウト日本連盟の教育主事、教育部長を経て、2005年からNPO法人自然体験活動推進協議会（CONE）事務局長を務めた後、現在、副代表理事

初心忘るべからず —— ヨハネスブルグ・サミットを思い出して



ヨハネスブルグ・サミット提言フォーラム（JF）が設立されたのが2001年11月であった。JF自体のヨハネスでの活動は、環境教育分科会とエコツーリズム分科会を中心とした提言活動であった。

ヨハネスのサミットの目的は、リオ・サミットにおける「アジェンダ21」の実施状況検証と新たな行動計画づくりであったが、途上国の貧困状況が取り残されたままであっては、環境破壊の進行も止められないので、とりわけ貧困の克服が緊急課題としてとりあげられた。環境破壊がすすみ、貧困格差が広がったという現実のなかで、「パートナーシップ（南北間、国連と市民社会など）」「ステークホルダー（女性、青年・子ども、先住民族、労組、農民、地方政府、科学者・技術者、NGO、企業など）」「ミレニアム開発目標（2015年までに貧困を半減するなど）」の3つがキーワードであった。

*

JFは、ヨハネスのNGOフォーラム会場で5回のワークショップを行い、300

～400人の人びとと接触をもつことができた——そのリストはいまどこにあるのだろうか？ 2002年秋から2003年春にかけてESD-J設立のためのさまざまな動きがあった——とくに年末から年明けにかけては激動であった。僕自身は、たまたま2002年8月からかわるようになっていて、リオとの人的継続性があまりみえないことに「？」を懐いている。行政レベルでローカル・アジェンダをSDにつないでいるところもあるのに——僕が知っているのは外国の例だが……。

*

ヨハネスでのJFのワークショップを貫くのは「声なき声を届かせる—構造的差別や抑圧のなかで届かない声に耳を傾けていくことを『教育の10年』の目標にしよう」ということであった。ピラミッド型でなく、そしてネット上での議論が先行してしまわない組織（運営）が求められていると感じた。

ヨハネスのNGOフォーラムに登録するのに\$130かかった。これでは、参加する

帝塚山学院大学文学部教授 岩崎 裕保

人たちはずいぶん限られてしまう。南アフリカの人びとの声は反映されたのだろうか。サミットのボランティアの多くは失業中の若者や大学生だった。僕たちの宿舎（ユースホステル）からは、バス停まで徒歩で30分、バスを乗り継ぎ70分～80分、確かに政府のサイトまでは遠かった……。

そして今も、政府とNGOの距離はあまり縮まってはいない。「小さなこと」に着目しないで「情勢」や「問題」を語っても空虚でしかない。「組織はピラミッド型ではなく（ウェブ型がよい）」「地域は小さく」がESDの基本であろう。NGOであるESD-Jの拠って立つところも同じだと思う。



ESD-J 理事。
同志社大学法学部政治学科卒業、同大学院アメリカ研究科修了。京都造形芸術大学などを経て、現職。開発教育協会副代表理事。編著書に、『新しい開発教育のすすめ方』（古今書院）、『地球市民教育のすすめかた』（明石書店）、『非核と先住民族の独立をめざして』（現代人文社）など

第4回国際環境教育会議で AGEPP 特別セッションを開催

第4回国際環境教育会議が、2007年11月インドアーマダバードで開催されました。グルジアのトリビシで第1回が開かれて以来10年に一度開かれてきた環境教育の国際的な会合です。今回はESDがメインテーマとなりました。ESD-Jは、「アジアESD推進事業（略称AGEPP）」*についてのセッションを開きました。

セッションでは、阿部治代表理事、大前純一理事、佐藤真久・武蔵工業大学専任講師（ESD-J会員）が、事業の枠組みやこれまでに寄せられた事例を紹介し、40人を超す参加者と議論を交わしました。国連でのESDのキーパーソンや、国際NGOの活動家、環境保護に取り組む若者など、20を超える国と地域からの多彩な顔ぶれが並びました。セッションでは、アジアにおけるESDネットワークのあり方や、ESDの事例共有の方法などについて、多くの意見がだされました。

「事例を共有する活動はたいへん重要で、アジアでの取り組みは世界的にも意味がある」というコメントも欧州の参加者からでした。今後は、参加したメンバーを軸にネットワークをつくり、各国の状況を共有していくことで一致しました。

この特別セッションのようすは、AGEPPウェブサイト(www.agepp.net/)からもみることができます。



* AGEPPとは……

トヨタ環境活動助成を受け、ESD-Jとアジア6カ国の6つのパートナーNGOが、地域に根ざしたESDの実践事例を発掘し、多言語ウェブサイトでも共有することをとおして、アジアのESDネットワークを構築することを目的とする3カ年プロジェクトです。

ESD-Jのボランティア & 学習会

2007年9月、ESDに興味をもつ学生たちが中心となって、ESD-Jのボランティアグループが誕生しました。事務局でボランティアをしながら、定期的に学習会を開き、ESDについて学びあうことを目的にしています。これまで学習会では、小学校やNGOのESDの事例をとりあげ「ESDってなに？」を話しあってきました。ボランティアグループへの登録に関心のある方は、事務局までご連絡ください。

私たちがESD-Jに入ったわけ

ライオンズクラブもESD-Jの一員へ

倉吉北ライオンズクラブ 会長 村上 啓文

当クラブは、国際的な奉仕団体であるライオンズクラブ国際協会の一員として、鳥取県中部に位置する倉吉市に本拠を置き、ライオンズクラブ国際協会のテーマ、We Serve 'われわれは奉仕する' をモットーに地元をはじめ、広くは国際的な奉仕活動に参画しています。

当クラブはこれまで環境問題に特化した活動には取り組んではいみませんでした。環境問題は避けて通れない今日の課題であると認識し、今期の活動の大きな柱の一つに据え、鳥取環境大学の教授による地球温暖化問題の講義を手始めに環境学習をはじめました。



そんなおり、鳥取県の人権教育団体が主催した人権教育講座に参加した会員が、講師の提供した資料でESD-Jの存在と活動を知り、ESD-J入会は当クラブの今後の環境学習の推進に有益であると判断し、他のライオンズクラブに先駆けて入会しました。

←鳥取環境大学教授による地球温暖化問題の講義

2007年10月から12月の活動報告

- 10月2日 第3回ESD国際ネットワークカフェ
- 10月5日 ESD-J ボランティアグループ 第1回勉強会
- 10月9日 文部科学省 環境教育指導者養成研修講座（磐梯）講師派遣
- 10月17日 環境省・文部科学省共催 環境教育リーダー研修（基礎講座）講師派遣
- 10月23日 文部科学省 環境教育指導者養成研修講座（吉備）講師派遣
- 10月23日 東京家政大学 園庭からはじめるドイツESDの取り組み 講師派遣
- 10月29日 地域プロジェクトチーム会議
- 10月29日 第3回ESDプロセス抽出WS in 板橋
- 10月30日 ESD地域レポーター会議
- 10月31日、11月1日 環境省関東地方環境事務所 環境カウンセラー研修 講師派遣
- 11月7日 環境省環境調査研修所 環境教育研修（行政職員むけ）講師派遣
- 11月10日 第4回ESD国際ネットワークカフェ
- 11月2日 ESD情報プロジェクトチーム会議
- 11月2日 ESD分野連携ワークショップ 宇都宮市「準備会」
- 11月3日 岡山大学 ユネスコチェア「Kominkanサミット in Okayama」
- 11月9日 ESD-J ボランティアグループ 第2回学習会
- 11月10日 ESD分野連携ワークショップ 豊田市「準備会」
- 11月24日、27日 第四回環境教育国際会議「ESD-Jアジア推進事業（AGEPP）特別セッション」開催
- 11月30日 ESD分野連携ワークショップ 豊田市「現地ミーティング」
- 12月3日 ESD-J ボランティアグループ 第3回学習会
- 12月13日-15日 エコプロダクツ展 出展

編集後記

今回、東京都江東区の東雲小学校の校長先生に取材をさせていただきました。1時間の予定が3時間近くにおよび、熱いお話を聞かせていただき、帰路についたときにはどっぷりと日も暮れて……。帰り道すがら、ESDが、さまざまなバックグラウンドをもつ子どもたちの学びや生活を支えていく土台に、少しでも貢献できたらしいなとつくづく思いました。（上條直美）

特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J)

URL <http://www.esd-j.org/> e-mail : admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F

TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中 : 正会員 (10,000 円)、準会員 (3,000 円) 詳しくは HP をご覧ください ●

